

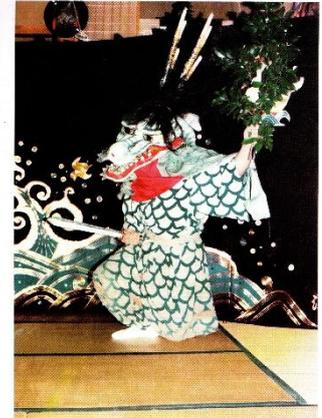
石見神楽(演目)大蛇おろち/八岐大蛇 の脱皮商品につきまして

Upcycle 三餘亭
楫ヶ瀬(かじがせ)孝

演目大蛇に使用される18mの長い胴を「蛇胴じゃどう」と云います。明治初頭は襦袢に鱗を書いて演舞されていました。

右の写真は復元画像です。

これでは演舞も面白くないと、明治24年頃に浜田市長浜在住の「植田菊市」氏が天井から吊るしてある棒提灯をヒントに、地元で産する竹と和紙を用いて蛇胴の形を考案。そして現在に至る、120年間の長い歴史があります。



この衣装を着て演じていた姿を再現したもの。©植田菊市撮影 写真提供：水野文子氏

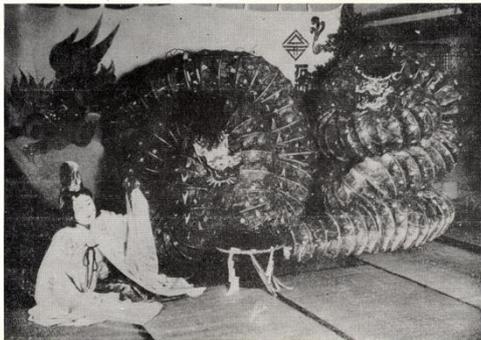


明治初期(昭和7年頃) 行楽舞場のような。蛇はどこでも「下」のものであった。この場は地元神楽屋はるかに島根と行き来の盛んな地であったので、今も昔も神楽を通じての交流はごく自然なものといえる。

左図の様に製作時当時は蛇一匹で有りましたがもう一つ面白くないと、

昭和18年頃に、実弟と共に演舞にて雌雄二体が舞う事を考案され、大反響を得る。

それまでは演舞も中程で披露されていましたが人気うなぎ上りに成り、最後のトリを務めるように成った。



大 蛇

その後昭和45年大阪万国博覧会の「日本の祭」島根の日にて、他の出し物が中止となり偶然にもこの石見神楽に白羽の矢が立つ。紆余曲折の問題を抱えつつ、3社中は責務を無事に果たされる。

この八俣の大蛇の神話は日本人で有れば知っている為、空想が現実と成り演舞されたことで大喝采を浴びた。

万博終了後は、各地や外国にも招かれて認知度が一層上がった。

その後昭和57年/島根国体の開催セレモニーに於いても八俣の大蛇が演舞！したことで大蛇は島根の顔となりました。

興隆期 大蛇8頭 観客の度肝抜く

昭和45年夏
大阪万国博覧会演舞

大阪万博の「日本の祭り」で演目「大蛇」を披露する浜田市石見神楽社中のメンバー 07/28~30



「」 32頭のオロチが暴れ回る石見神楽を情緒豊かに紹介する

さて、この蛇の胴体を「蛇胴」と云い長さは1.8mに成る代物です、演者一人で頭を頭に被り背中に蛇胴を括り付け演舞される大変な重労働です。「日本間」の一間1.8mを基本に9つのパーツと尻尾がセットの単位で、特殊な石州和紙100枚程を用いて三重に貼り、過激な演舞にも耐えて、観客を魅了させます。



大蛇蛇胴は、年30回約20年第一線で活躍し、擦れや破れが生じる事で練習用と成ります。

其れも凡そ10年が限度で悪く成ると倉庫に積み置かれ、貯まると最終的には焼却廃棄の形式が120年続いて来ました。

2011年に退職し、育った地元へ何かお礼がしたい。と心の奥底で思

案し始める？

当地外ノ浦は海辺の街で以前は奉納神楽が有りましたが、人口減により神楽の演舞は誘致せず！という事で数年経過、闇夜に光る神楽が見られない！！急に郷愁が湧いて来る。そうだあの鱗模様の柄を所有して、何かを作りたいと思いつ。

しかし私は神楽には全く縁の無い人間、あの蛇胴は演舞をされる団体(社中)が全て保有されている。蛇胴は一体25万とか？とてもその様な物はおいそれと入手出来ない。悶々と数年経過 念ずれば何とか！偶然社中代表者と縁が出来、自分の思いのたけを話。「それじゃ〜一つやるよ」と言われて入手したのが2015年夏でした。



2015/08 西村社中との御縁から
初めて蛇胴を頂く。

この画像の様に床に擦れ破損もありますがダメージの少ない箇所もあります。
この日から孤軍奮闘！

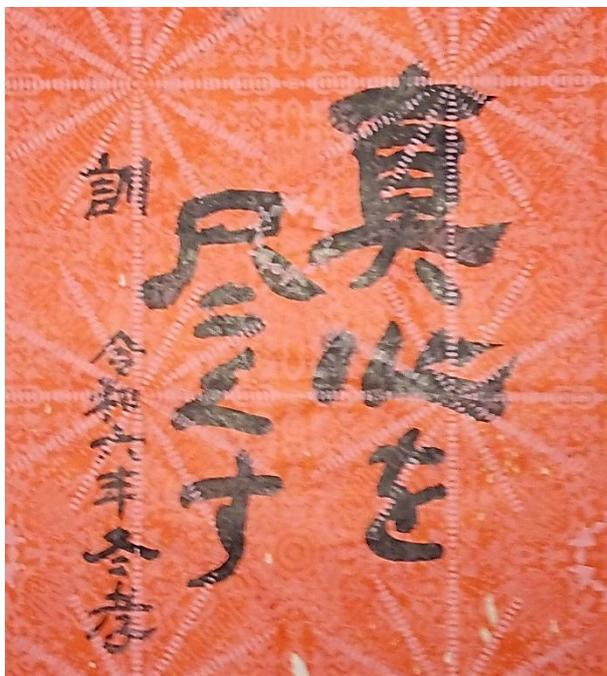
作業しやすい様に2節か3節で切断/そして解体と胴を展開する。
鱗模様の和紙は一杯入手出来るが円柱を平面にする行程や



床に擦れる竹輪の外周は防止のた
為にテープが全ての節に貼ってあ
るのを除去するのが至難の業。
私の前には尋ねる人も無く、とにか
く私が創始者！

60年の経験値と些細な点でも発
想する楽しさも加わり、手先の器用
さもあり、希望の物が具体的に実
現するようになる。
一つの成功までに幾つの失敗作が
転がっているか？
振り返ると捨てがたい苦勞の山が
横たわっています。

焼却の運命にあった蛇胴、誰も発
想しなかったことへ一つの歯車を
追加したことで、触れる事が出来な
かった市民の皆様へ、蛇胴の小物と
して脱皮/変身を遂げ再び蘇る事
が出来ました。僕的心中にはエエカ
ゲンな物は世に出さない！の一心
で今日まで研鑽して来ました。



10年経過し、当社の標語は
この言葉を胸に、愛好者の皆様に
長い事使って貰える小物を作り
続けていきたいと思ひます。



商品説明(名刺入れ)
 名刺入れは求め頂いた方のご意見を大切にして4版/5版と成長中の品に成ります。

分かりにくいかも知れませんが本体部分はマチを入れ、名刺は結構セットできます。

又、蓋(扉部分)にも数枚入る様に製作。相手様との名刺交換した折にはこの扉に入れておくと後に探す手間は省けます。

多色で和紙の風合いと厚さに驚いて下さい。

そう簡単には役御免とは成りません。

税込み¥3200

奥側(本体)のマチ部分



ペンケース(込み) ¥2200

ボールペン、シャーペンなど4~5本入ります。

マグネットで蓋は収納しています。筒の製作は表で合わせております。

コンパクトでどこにでも入ります。



御朱印帳(込み) ¥4950

表と裏の柄は皆違います、2種の蛇殿柄を楽しめます。

片面12葉で両面では24葉の朱印が押印可能です、又裏側には墨が滲まない二枚構造です。

微かにお分かりかも、OPP袋装着で片面のみ開閉致します。

以上何卒宜しくお願い致します。

2025/01/10

Upcycle 三餘亭

楫ヶ瀬(かじがせ)孝

